

令和5年度むらづくり審査講評

講評：中国四国農政局むらづくり審査会 主査 駄田井 久



令和5年度農林水産祭むらづくり部門中国四国農政局表彰式

令和5年11月30日（木） プュアリティまきび 2階「白鳥」

◆鹿野町河内果樹の里山協議会（鳥取県鳥取市鹿野町）

2014年に地域内農地の大半である約4ha.の耕作放棄を防ぐために、「5年間に1千本の果樹の苗を植える」を目標として、鹿野町河内果樹の里協議会の活動が開始されました。協議会では地域西側の農地を樹園地として整備するところで、2023年時点で約860本のイチジク・柿・栗などの果樹が植えられています。協議会発足時から、鹿野町中心部のまちづくり協議会や鳥取大学・大阪国際大学といった地域外の団体と協働することで取り組みを進めてきています。大学生などの地域外との連携によりフットパスや果樹の里山祭りなど地域外から多くの人を呼び込むイベントを開催しています。里山祭りでは、人口約60人の集落に2日間で600人が訪れました。また、協議会の活動拠点として地域内の遊休施設を整備し、「里山ベース」として活用しています。この施設では、女性が気軽に集まれる楽しい場として、大学生の企画により「女子会」が開催されました。この女子会で生まれた関係により、ジャムやピザなどの加工品が生まれ、2018年から大阪の店舗などで販売されています。

以上の様に、河内果樹の里協議会は、大学生をはじめとした地域外住民が、単なる来訪者として地域を訪れるだけでなく、地域での様々なイベントの企画や運営に携わることで、「交流・協働・共創」を実現している点が高く評価されました。これからは、果樹生産量の増加も見込まれ、資金の安定的確保により活動の更なる発展と地域の活性化を期待しています。

◆農事組合法人 福の里(山口県阿武郡阿武町)

2001年の地域内ため池漏水の修繕作業をきっかけに導入された大豆作を行うオペレーター組織が中心となって、2003年に農事組合法人福の里が設立されました。この法人では、地域内農地を集積し、法人所有の大型機械を利用することで非常に効率的な農業生産を実現してきました。2023年では、7集落115ha.の農地を集積しており、山口県内でも有数の大規模経営体となっています。育苗から乾燥調製までの水稻作作業を法人内で一貫して行うことで、生産コスト削減のみならず、各作業に従事する人々を雇用することで地域内での所得創出も実現しています。また、暗渠排水・パイプライン化や自動バブルの導入などの事業実施により、更なる農業生産性の向上を目指しています。地区の非農家と法人組合員により「福の里農地見守り隊」が構成され、農地や農道の管理等に取り組み、地区内の耕作放棄を解消しています。地区内に設立された社会福祉法人事業所との連携により、畦草刈りなどの作業を事務所が請け負っています。法人では労力の確保、事務所は就労の場と労賃確保と、互いにとってメリットのある関係を構築しています。

法人の作業受託により、個々の農家で作業従事していた女性が地域活動に携わる余裕ができ、2005年に女性部が設立されました。女性部では、地域内で伝承されてきた食品を次世代に引き継ぎながら、地区内の資源を活かした加工品として直売所で販売しています。また、2006年に、この女性部が中心となり地区内の地域資源を整理し、子供からお年寄りまでの老若男女の意見を取りまとめた「福の里夢マップ」を作成しています。2007年地域内に直売所を開設し、女性部の生産した加工品の販売のみならず地元漁協との連携による海産物販売や各イベントの場として、地域内の重要な拠点となっています。

以上の様に、農事組合法人福の里は、地域内に新たな組織の設立、他組織の連携により農業以外の分野への貢献、地域住民の生活をサポートするソーシャルビジネスといった、中山間地域の水田農業の担い手としての役割を大きく超えた取り組みをしている点が高く評価されました。また、法人のオペレーターとしての農業大学校卒業生の雇用や地域外からの移住者など、これからの法人を支えていく人材確保も行われており、持続的な発展が期待できます。

◆百姓百品グループ(愛媛県西予市野村町)

百姓百品グループは、1998年の地域内農産物を松山市への直販を行う「百姓百品産直組合」から、生産者が株主となった「百姓百品株式会社」とその活動を広げてきました。地域の持つ課題を①後継者不足, ②小規模農家衰退, ③耕作放棄地増加, ④地域生活利便性の低下, ⑤雇用の場の縮小, ⑥障がい者の暮らしと活躍の場の不足, と6つに分類し、農業によりこれらの課題を解決しながら新たな価値を創出していくことをミッションとして掲げています。

現在では、地域の耕作放棄地を活用して業務用の青ネギ周年栽培を行う「株式会社百姓百品村」、農福連携事業に取り組む就労継続支援B型事業所「株式会社野村福祉園」(レインボーアグリ)、地域内で農産物直売所を運営する「百姓百品株式会社」の3社組織が連携しながら事業に取り組んでいます。それぞれの会社が、地域内の高齢者の生きがいつくりと地区内農産物の地域外への販売とPR活動を行う百姓百品株式会社、青ネギの栽培による地域の耕作放棄地解消と農業所得確保を行う株式会社百姓百品村、農業の担い手確保と障がい者の経済的自立への支援に取り組む株式会社野村福祉園、と各分野に特化しながら「地域の課題を農業で解決する」という共通ミッションに取り組んでいます。百姓百品株式会社だけで、2億円/年以上の売上であり、グループの活動により地域外から多くの価値を呼び込み、その価値を地域内で活発に循環させるシステムを作り上げています。2018年の西日本豪雨では大きな被害を受けましたが、グループが一丸となり取り組み、災害から見事な復興を遂げています。

以上に様に、百姓百品グループは、地域社会の担い手として経済活動と社会活動の両面をマネジメントする地域総合商社の役割が高く評価されました。また、地域おこし協力隊の様な地域外や、地域内で生まれ育った若い世代がグループ内の各組織でリーダーとして活躍されています。「地域の課題を農業で解決する」という創始者のミッションを、彼らの様な次世代に受け継がれ、その活動を維持・拡大していくことが期待できます。